



#### インタビュー

「ものづくり」を幅広く、深く掘り下げる

#### センターだより

人類の貴重な遺伝資源を、世界へ、未来へ。  
— 知の継承者として —

#### 国際セミナー

留学生OB・OGが留学生受入促進へ提言

#### トピックス

- ・学長主催による留学生と学内外関係者との交流会
- ・外国人留学生等実地見学旅行
- ・タイの留学生同窓会が初会合



京都工芸繊維大学  
国際交流センター

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地  
Tel:+81-75-724-7128 Fax:+81-75-724-7710  
E-mail:ab7128@jim.kit.ac.jp  
<http://www.kokusai.kit.ac.jp/japanese/>  
<http://www.kit.ac.jp/>



## 学域長インタビュー ■ 設計工学域長

## 「ものづくり」を幅広く、深く掘り下げる

設計工学域長

大学院工芸科学研究科 機械システム工学部門 教授

松野 謙一



教育研究のより有機的な連携の実現をめざして、本学では二〇〇六年度に工学部・一研究科から、一学部／研究科(工芸科学部／工芸科学研究科)・三学域(生命物質科学域・設計工学域・造形科学域)への組織再編を行いました。各学域には課程と専攻が置かれ、私が学域長を務める設計工学域には以前の工学系学科／専攻が四つの専門課程および専攻となって属しています。

学域という組織自体がユニークとはいえませんが、「設計工学」という名称も日本の大学ではかなり珍しいと思います。工学は人間社会に役立つものや道具などを作り上げる、いわば「ものづくり」に関する学問ですが、設計工学という学域名にはそれを幅広く、深く掘り下げ、総合的に考えようという理念が表わされているのです。たとえばあるものを製作しようとするれば、その前にはコンセプトを決める企画とそれを具体化する設計が必要で、製作後には、不具合などの有無を確かめ

る評価が不可欠です。それぞれのプロセスは有機的に結び付き、評価は企画・設計・製作のすべてにフィードバックされ、逆により企画をするときは常に設計と製作を念頭に置かなければなりません。空飛ぶクルマを企画しても、実際に「カタチにできない」「つくれぬ」では意味がないですからね。もちろん技術的なことだけでなく、「コストも重要なポイントです。本学域ではこのように企画・設計・製作・評価の全プロセスを見通しながら、イノベーションを実現し得る人材の育成を目的としています。設計開発が出来、そして設計通りにものを製作するための知識や技術を持っているだけでなく、何のために、何を、どのようにしてつくるのかという思考力と応用力をも備えた高度専門技術者の輩出に努めているのです。

設計工学域に属する四つの教育研究分野は、新たな電子機器やデバイスの創造をめざす「電子システム工学」、コンピュータや情報処理の技術革新に挑む「情報工

学」、多彩な機械・機器の新開発に取り組む「機械システム工学」、デザイン・マネジメント・エンジニアリングの融合を通してモノ・コトづくりを考える「デザイン経営工学」と、実にバラエティに富んでいます。専門的に修得する内容はそれぞれ異なりますが、豊富な実験や演習を通してものづくりをトータルに探求していく方針に変わりはありません。より実践的な力、キュラムとして、企業と一体となつてもものづくりを進めるプログラムを設けており、これは地域の活性化へ貢献するユニークな取り組みとして文部科学省の現代GPにも選ばれています。また、学生の国際会議での研究発表を積極的にサポートするなど国際舞台で活躍できる人材の育成を進めており、多くの研究室では留学生と日本人学生が互いに刺激しあい、切磋琢磨しながら勉学に励んでいます。

日々やるべきことが非常に多いため、本学域の学生はたいへんだと思います。しかし挫けることなく、大学院への進学を含

め、ほとんどの学生が志望する道に進んでいるのは頼もしい限りです。学域長として今後、学生はいっそう勉強しやすく、教員は教育研究がより円滑にできる環境づくりに尽力していくつもりです。そして「ここで学んで良かった」と、卒業後に笑顔で訪れてもらえれば、こんなに嬉しいことはありません。

## 設計工学域

## 学部

電子システム工学課程  
情報工学課程  
機械システム工学課程  
デザイン経営工学課程

## 大学院

## 博士前期課程

電子システム工学専攻  
情報工学専攻  
機械システム工学専攻  
デザイン経営工学専攻

## 博士後期課程

設計工学専攻





ショウジョウバエ遺伝資源センター

## 人類の貴重な遺伝資源を、 世界へ、未来へ。

— 知の継承者として —

ショウジョウバエ遺伝資源センター 教授・センター長  
遺伝資源キュレーター教育開発センター長  
大学院工芸科学研究科 教授

山本 雅敏

平安時代からの歴史を受け継ぐ風雅な景勝地、広沢池にほど近い嵯峨キャンパス内に当センターは位置しています。一九九九年に日本で唯一のショウジョウバエ遺伝資源研究文部省令施設として誕生し、二〇〇二年に開始された文部科学省のナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)の中核機関となりました。当センターでは世界中から厳選して集めたショウジョウバエの「系統」を独自の研究に用いるとともに、内外の研究者に提供する支援活動を行なっています。提供先はアメリカ、ヨーロッパ諸国、インド、中国など世界各国に及んでいます。ショウジョウバエは長年遺伝学研究に用いられ、遺伝情報の解明がもっとも進んでいる遺伝資源です。「系統」とは突然変異を確実に維持したまま、何世代も純系として継続する単位の事で、特定の突然変異遺伝子を持つ個体群で構成されています。当センターでは現在約二万五千種類の系統を生きた状態で維持しており、その数は世界一です。しかも外国の研究室から保存して欲しいとの要望もあり重要系統を選択して受入れています。

個の遺伝子ではなく、複数個の遺伝子が作用して引き起こされます。ですので、翅の曲がる仕組みをより精密に解き明かすには、どの遺伝子が、どの段階で、どのような異常をもたらしているかを見極めなければなりません。そのためには系統が多ければ多いほど詳細な研究が可能となり有利なのです。そしてその仕組みが詳しく解明できれば、翅が曲がらないようにするにはどのようにすれば良いのかを知る道も開けます。また、ショウジョウバエの遺伝子の七〇%はヒトと同じとされていますので、その研究は医学や薬学への応用が期待できます。

とはいうものの、生物を用いた研究では応用を急ぐだけでなく、まずその生物自体を深く知ることが大切だと考えています。生殖、休眠、共生などの分野で昆虫特有の生命現象への理解と知識を幅広く深めたうえで、医学・薬学・農学分野の遺伝子レベルの研究に着手する。その結果として得られた成果を人間の生命科学に応用していくことが、私たちの取り組みのあるべき姿と想っています。

そういう意味でも、生物をキチンと扱える研究設備や人的体制の整備が今後とも継続されていく必要があると考えています。生物学の現場を見回すと、ゲノム研究以降、「生き物」のいない研究室が増えていることに気づかされます。DNAやタンパク質だけを扱い、研究者が生物を直視



ショウジョウバエ系統の維持



翅の曲がったショウジョウバエの模型

し、触れる環境が少なくなっているのです。しかしそれでは、生物や生命現象への正しい理解と知識が身に付かないのではないかと。また、生物を用いたこれからの研究には「生物の多様性に関する条約のバイオセーフティに関するカルタヘナ議定書」への実務対応力も求められます。世界中の研究者から預かった遺伝資源を大切に維持し、研究をよりいっそう充実させるとともに、ふたたび世界中の研究者へ「知の継承」を行うために、わが国唯一の研究施設として国際的に果たすべきことは何かを見据え、それらをつつと、着実に実行に移していきたいですね。



# 留学生OB・OGが 留学生受入促進へ提言

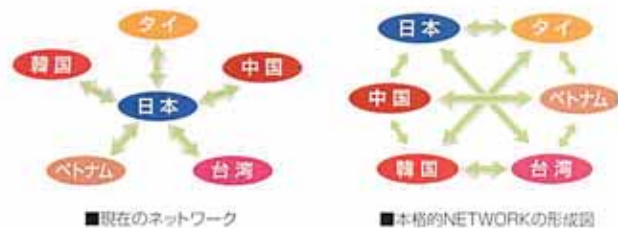
## 国際化・多様化に対応する修士課程秋季入学の 拡大とデザイン技術者育成のための 弾力的学部課程教育プログラム開発事業



ソンボーン・ナムサングラット

- ①タイ
- ②博士前期課程意匠工学専攻(90)
- ③フリーライター

日本(KIT)を中心とするのではなく、留学生交換はアジア全体の国々の一員として、みんな互いに自由に交換できるようにしていただきたいと思います(本格的NETWORKの形成 図参照)。



①国(地域)  
②在学時の所属(卒業年)  
③現在の職業



サイクワン・トリスナン タイ連絡事務所代表

- ①タイ
- ②繊維学部応用生物学科(95)
- ③チャル・タイ・シルク有限公司 ディレクター

在学時に蚕について多くのことを学び、それを現在の職務に生かしています。日本の文化の良いところもたくさん学びました。今日は、KITが留学生の獲得に強い息志を持っていることを知り、大変うれしく思いました。KITジャーナルに、在学生からのメッセージがもっとたくさん載っていると良いかもしれません。



劉曉民 中国連絡事務所代表

- ①中国
- ②博士後期課程情報・生産科学専攻(93)
- ③上海久遊軟件有限公司 總經理

KITは、先生の研究レベルが高く、学生を熱心に教えていただいています。今後も我々留学生OB・OGが自分の職業に忠実によい成果を上げ、「母校の名」に貢献すべきだと思います。KITジャーナルで、古い友人の記事と出会ったり、今の留学生の状況などを知りました。更に先生方の研究、関心を知り、インターネットで同じ話題を調べたりするのが楽しみです。



魯興萌

- ①中国
- ②博士後期課程機能科学専攻(85)
- ③浙江大學 教授

留学中の一番大事な収穫は松本先生など先生たちと友人にであったことだと思います。京都のホストファミリーなどいろいろな日本人の友達ができ、日本の歴史と文化などがよく理解できました。今回は12年ぶりのKIT再訪問ですから、とてもうれしいです。卒業後に成功した留学生がKIT留学生向けの奨学金を設立できると良いと思います。



陳躍

- ①中国
- ②博士後期課程情報・生産科学専攻(95)
- ③常州克創軟件有限公司 代表取締役

KITで学んだITの理論は現在の仕事の基礎となっており、また、企業での人材育成や問題分析などにも、KITで学んだことが大きく役立っています。今回、卒業してから全然会う機会がなかった留学生、以前会ったことのない留学生、そして先生、職員とお会いできてとても嬉しいです。「京都工芸繊維大学」はいい大学だと日本の方からよく言われます。誇りに思っています。



顧建宏

- ①中国
- ②博士前期課程応用生物科学専攻(96)
- ③杭州西湖風景名勝区風景山管理處 副主任

ご指導いただいた先生をはじめ、留学生関係の皆さんのやさしさが私の留学生生活での良い思い出です。いつもKITインターナショナルジャーナルを読み、なつかしく思っています。KITの現状をもっと詳しく紹介してほしいです。



王健

- ①中国
- ②博士前期課程機械システム工学専攻(92)
- ③日本株式会社久保田蘇州事務所 主席代表(所長)

在学時の指導教授は学問だけでなく、日本の社会、生活などを指導してくれました。今回、お世話になった先生方にお会いでき、とても嬉しいです。また、他の国々からの留学生とも交流でき、今後卒業生ネットワークを広げていけると思います。今後も先生の現地派遣を含めた卒業生の定例会を支援し、卒業生の交流の場を作ってほしいです。

二〇〇九年二月十七日～十八日に「秋期入学に関する国際セミナー」をKITで開催しました。留学生として本学で学び、帰国後、母国の大学または企業で主導的な地位にある中国、韓国、台湾、タイ、ベトナムからの留学生OB/OG十七名が参加しました。この中には、本学と学術交流協定を締結している母国の研究機関のコーディネーター教員や、KIT国際学術交流クラブの各国連絡事務所の代表者も含まれます。セミナーの全体討論会では、秋季入学の拡大による留学生受入れの促進のための優秀な留学生の獲得方法やKITの海外広報活動などについて新たな提案が次々と出され、参加者それぞれの専門の部門や研究室では、秋季入学者のための具体的なプログラムについて意見交換が行われました。ここでは、セミナーの参加者とそのコメントの一部をご紹介します。どのコメントからも留学生OB・OGのKITへの真摯で温かい視線が感じられ、今後KITが国際化・多様化への対応を考える上で、留学生OB・OGの支援と国際的ネットワークの重要性が再確認されました。



**羅吉平**

台湾連絡事務所代表

- ①台湾
- ②博士前期課程造形工学専攻(92)
- ③台湾紅葉股份有限公司 執行経理

KITの素晴らしいところは、伝統でありながら革新があるところです。学術的には伝統なものを経ながら、新しい技術や造形を作り出すことはとてもよいことだと思います。優秀な留学生を増やすには、学校の特色を多くの留学したい学生に知ってもらうのがよいと思います。いかに外国でKITの広報を多くできるかが大事だと思います。



**曹永慶**

- ①台湾
- ②博士後期課程機能科学専攻(97)
- ③大同大学 工業設計学系主任

今回はKITを卒業した留学生たちと会うことができ非常に嬉しいです。セミナーを通じて留学生たちとの連絡ネットワークができ、KITにも、私たち個人にも、将来により発展を与える機会になったと思います。KITの海外広報のため、ホームページのインターフェイスをぜひ改善してほしいです。



**ファム・ティエン・ゴック**

- ①ベトナム
- ②博士後期課程機能科学専攻(96)
- ③ハノイ医科大学 准教授/大学院研究科長・生化学部副学部長

KITは、留学生の受入体制がよく整っていて、教育研究設備も素晴らしいです。私たちKITの卒業生が今、ハノイ医科大学のいくつかの研究分野で主導的な役割を果たしています。卒業生留学生の活躍がベトナムでのKITの指標となっています。KITでは先生方も日本人の友人もとても親切で、研究上だけでなく生活上もよく手助けしてくれました。



**タ・ティン・ヴァン**

ハノイ医科大学との協定のコーディネーター/ベトナム連絡事務所代表

- ①ベトナム
- ②博士後期課程材料科学専攻(99)
- ③ハノイ医科大学 准教授/化学・生化学科副学部長

KITで生化学について多く学び、それが現在の私の研究にとても役立っています。加えて、文化や言語など多くのことを友人たちから学び、知識が豊富になりました。KITジャーナルKITの最新情報を得ています。各国の留学生OB/OGの現在の職業や活躍状況などの情報が掲載されれば、それが世界への広報になるとと思います。



**ダン・チ・フォン・タオ**

- ①ベトナム
- ②博士後期課程機能科学専攻(08)
- ③ベトナム国立大学ホーチミン理科大学 分子環境生物学科長

今回のセミナーに参加して、KITが留学生の視点から考えようとしていることが分かり、KITが本当に留学生のことをよく考えていると感じました。またKITは、留学生OB/OGに留学生獲得方法について意見を求めることにより、国際的なネットワークをもっと強固にしようとしていることが分かりました。



**李軍**

- ①中国
- ②博士後期課程機能科学専攻(02)
- ③青島理工大学土木工程学院 助教

KITで学んだことは専門知識を学んだだけではなく、研究に対する姿勢も身につけて、大変役に立ちました。いつも大事に思っており、母校とともに成長していきたいと思っています。大学は優秀な学生を育成すれば、社会に高く評価され、知名度が出るはずです。元留学生のネットワークを大切にして、知名度をある程度上げられるでしょう。



**金明蘭**

水原大学との協定のコーディネーター

- ①韓国
- ②博士前期課程専攻工学専攻(07)
- ③水原大学 デザイン学部長・教授

KITは家庭的な雰囲気、人間関係が親密なのがよいところだと思います。見学旅行に四国へ行ったことや、留学生パーティーでいろいろな国の学生たちが作った各国料理を食べた交流したことが良い思い出です。今後は、インターネット上で教授や学生の活動や専攻を詳しく紹介するなど、海外への広報をもっと積極的にすると良いと思います。



**具剛**

徳島大学との協定のコーディネーター/韓国連絡事務所代表

- ①韓国
- ②博士後期課程材料科学専攻(93)
- ③徳島大学校務推進フロンティア学部 教授

KITは小さい大学で、在学中は皆さんが親切だったのを覚えています。今後、留学生のOBが自分の国で学生にKITを紹介できるようなシステムを作る必要があります。海外でKITの知名度を上げるのはKITのOBの役割であると思います。



**金福敬**

新羅大学との協定のコーディネーター

- ①韓国
- ②博士後期課程機能科学専攻(98)
- ③新羅大学コミュニケーションデザイン学科 教授

在学時に美術館めぐりやセミナーなど、日本の友達と交流したことが良い思い出です。今回のセミナーを通じて、ますますの日本と韓国の交流を進めたいと思いました。



**李貴琪**

- ①台湾
- ②博士後期課程機能科学専攻(93)
- ③中国文化大学紡織工学系 教授・系主任

KITで身につけた一生涯勉強する精神が現在の仕事に役立っています。KITを紹介する留学生向けDVDやCDをぜひ作って下さい。私たち留学生OB・OG、特に大学の教員たちがそのDVDを用いてKITを学生たちに紹介します。昔、台湾人の留学生は約20人いましたが、現在は1人もいません。KITの台湾人留学生を増やせるよう頑張りたいです。



## 学長主催による留学生と学内外関係者との交流会

2008年12月19日に学長主催による留学生と学内外関係者との交流会を開催しました。当日は、在日外国公館、京都府や京都市等の行政機関や日ごろより本学の留学生をご支援いただいている組織からご来賓をお招きし、留学生と交流を深めるとともに意見交換を行う場となりました。本学交響楽団演奏による学歌で華やかに開幕した交流会では、江島学長の挨拶に引き続き、ご来賓を代表して中華人民共和国在大阪領事から祝辞があり、留学生への暖かい応援メッセージが述べられました。

招待者14名、留学生117名、指導教員を含む教職員92名、計223名もの参加で賑わった会場では、留学生による楽器演奏や様々な言語による合唱など、留学生のアトラクションも催され、学部、博士後期課程それぞれの卒業・修了予定者から謝辞が述べられ終了しました。



## 外国人留学生等実地見学旅行

2009年2月23日～24日に外国人留学生等実地見学旅行を実施しました。これは、外国人留学生が日本の伝統文化と最新技術に触れ、日本の技術を実地で学ぶことを目的として毎年行われているもので、今回は外国人留学生39名、日本人学生1名が参加し、教職員4名が加わり、金沢方面を訪れました。

参加者は初日、東尋坊、日本折紙博物館を見学した後、「伝統工芸村ゆのくにの森」において、紙すきの体験を行いました。留学生の多くが、和紙がどのように作られているかを初めて知り、水の冷たさに驚きながらも笑顔で紙すきに没頭していました。

二日目は、「妙立寺」(通称忍術寺)を訪れた後、兼六園・金沢21世紀美術館を見学しました。金沢21世紀美術館では、日本の最新の現代美術作品に触れ、留学生達は作品の世界の奥深さを感じながら思い思いの時を過ごしました。



## タイの留学生同窓会が初会合

タイ人留学生OB・OGを中心とするKIT国際学術交流クラブのメンバーによる初会合を、タイのバンコク市内で行いました。参加者は2008年11月22日にバンコクで開催された日本学生支援機構主催の日本留学フェアでKITのブースを訪れ、留学フェアに参加していたKITの功刀副学長、亀井准教授や国際企画課職員と懇談し、現在の活躍状況や在学時の思い出ばなしに花を咲かせました。参加者からはタイから見たKITについて建設的な意見が寄せられるなど、KITの今後の国際交流へ大きな期待が感じられました。会合中は、かつての指導教員や学友と再会し、また初対面でもKITでの共通の話題を発見して会話が弾み、参加者は楽しいひとときを過ごしました。



ご意見・ご感想をお寄せください!  
e-mail: ab7128@jim.kit.ac.jp

KIT国際学術交流クラブをお読みいただきありがとうございます。  
皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。

### 国際学術交流クラブについて

このクラブは、本学の卒業及び在学外国人留学生、元・現国際訪問研究員、学術交流協会の教職員など多くの方々により組織されている世界的なネットワークで、本学が国際社会の学術的な発展と科学技術の振興に貢献するための一翼を担うことを目的としています。

入会のお申し込み等についての詳細は本学のホームページをご覧ください。

[http://www.kit.ac.jp/07/07\\_070000.html](http://www.kit.ac.jp/07/07_070000.html)

編集後記：編集委員 榎 勝彦 (造形工学部門・教授)

京都の春は、街中の桜の花で始まります。大学周辺では、高野川沿いの桜並木が卒業生、特に留学生OB・OGの方々の記憶にあるのではないのでしょうか。本号がお手元に届く頃は、本々もすっかり豊かな葉を茂らせていることと思います。今回の特集は、国際セミナーでの留学生OB・OGの提言でしたが、このKITジャーナルも、大学の「今」と読者の皆さんの「今」を、京都・松ヶ崎での美しい記憶を媒体としながら、繋いでいきたいと思っています。

### 国際企画課/学生交流コーディネーター

国際交流センターに関するすべての事務を担当しております。皆様からのご連絡を一同お待ちしております。



表紙写真提供

符潔明さん(香港)

博士前期課程造形工学専攻